

12月3日発表のブラジルの政策金利の引き上げについて

政策金利を11.25%から11.75%に引き上げ

2014年12月3日(現地時間)、ブラジル中央銀行は金融政策決定会合において、政策金利を0.50%引き上げ、年率11.75%とすることを決定しました。

前回の会合では、8人の委員のうち5人が利上げを支持しましたが、今回は全会一致で利上げが決定されました。また、利上げ幅は前回の0.25%から0.50%に拡大しました。

市場参加者の多くが今回の利上げを予想していましたが、利上げ幅を巡っては見方が分かれていました。同中銀は2会合連続で政策金利を引き上げており、利上げ幅は計0.75%となります。

インフレ抑制への姿勢を継続

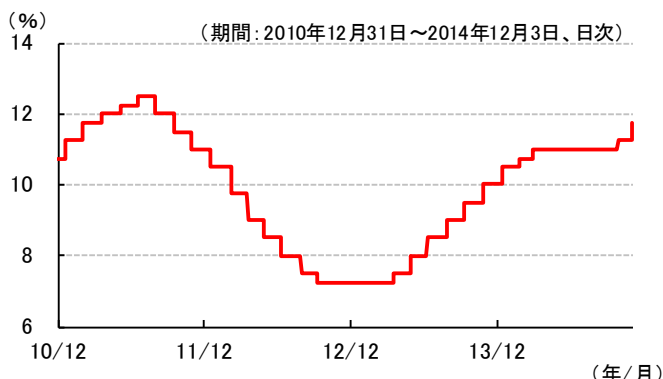
今回の決定の背景には、同中銀がインフレに対する警戒感を緩めていないことがあります。10月のインフレ率は6.59%と、前月を下回ったものの、依然として同中銀の目標レンジの上限である6.5%を上回っています。また、足元での原油価格下落を受け、産油国である同国の通貨は対米ドルで下落基調となっています。

このような状況のもと、同中銀のトンビニ総裁は「2年間でインフレ率を同中銀の目標レンジの中央値である4.5%まで引き下げよう、金融政策を行なう」と発言していることなどから、同中銀はインフレ抑制への姿勢を継続したものとみられます。

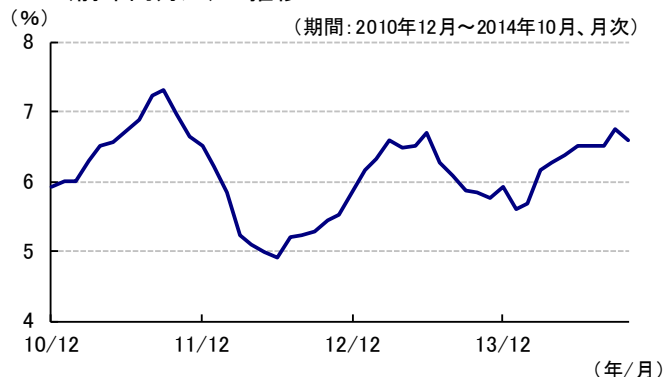
次回の金融政策決定会合は2015年1月20-21日(政策発表は日本時間1月22日)の予定です。

以上

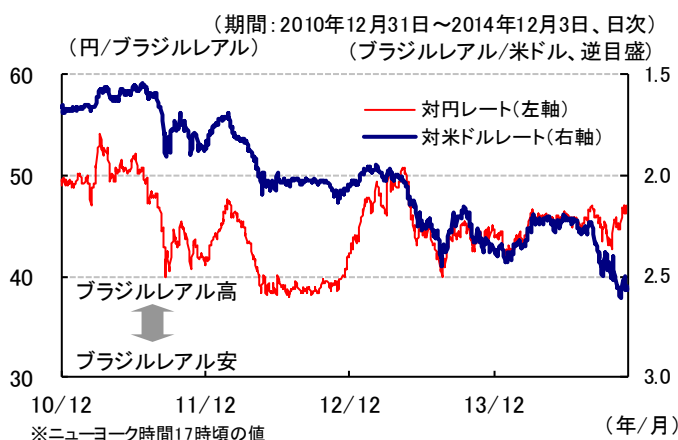
【図1】ブラジルの政策金利の推移



【図2】ブラジルのインフレ率(拡大消費者物価指数、IPCA)(前年同月比)の推移



【図3】ブラジルレアルの対円・対米ドルレートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成